



高齢者福祉・介護保険に関する
日常生活圏域高齢者ニーズ調査
調査結果報告書



平成29年8月

平取町保健福祉課

○日常生活圏域とは

「日常生活圏域」とは、高齢者が住み慣れた地域で適切なサービスを受けながら生活を継続できるように、地理的条件・人口・交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況などを総合的に勘案し、地域の特性に応じて町内を区分したものです。

国の指針が人口約30,000人、高齢者人口約6,000人を基準として一圏域となっていることから、平取町では町全体を日常生活圏域とし、特に町内を区分することはしていません。

今回の日常生活圏域高齢者ニーズ調査は、日常生活圏域における高齢者の生活課題に関する質問紙（アンケート）調査を行い、その結果分析等により地域の課題の内容および量的な状況を明らかにするために実施しました。

【参考データ】

		平成23年4月末	平成26年4月末	平成29年4月末	平成37年推計
全体人口	男性	2,697人	2,703人	2,554人	2,104人
	女性	2,907人	2,834人	2,676人	2,259人
	全体	5,604人	5,537人	5,230人	4,363人
高齢者人口	男性	707人	730人	736人	678人
	女性	961人	986人	1,014人	942人
	全体	1,668人	1,716人	1,750人	1,620人
高齢化率		29.76%	30.99%	33.46%	37.13%
認定者数	要支援	71人	94人	59人	125人
	要介護	191人	191人	232人	238人
	全体	262人	285人	291人	363人
介護認定出現率		15.71%	16.61%	16.63%	22.41%

※ 平成37年推計は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」による

○日常生活圏域高齢者ニーズ調査の実施方法

【調査の対象】

- 調査対象者は、平成29年4月1日現在65歳以上で、長期入院の方や介護施設等に入所されている方などを除く平取町に住所を有する方全員としました。
- 町全体を「日常生活圏域」としていることから、調査対象地区は設けず、悉皆調査を実施しました。

【調査の方法】

- 調査票の発送・回収は、基本的に郵送としました。発送時に返信用封筒を同封し、返信による回収を行いました。
- 一人暮らしの方や一部の一般高齢者は、民生委員の方々や施設職員（介護施設以外）の協力を得ながら訪問調査や電話での聞き取り調査を実施しました。
- 調査票は、厚生労働省が示した必須項目と町独自の質問項目で実施しました。

【調査の概要】

調査方法	対象者数	回答者数	回収率
合計	1,594人	1,126人	70.64%
郵送による調査	1,252人	850人	67.89%
民生委員、施設等への訪問調査依頼	258人	197人	76.36%
保健福祉課対応	84人	79人	94.05%

- ※ 平成29年4月1日現在高齢者（65歳以上）数 1,747人
- ※ 調査対象除外者数 153人
- ※ 調査（アンケート回収）期間 平成29年4月10日～6月30日

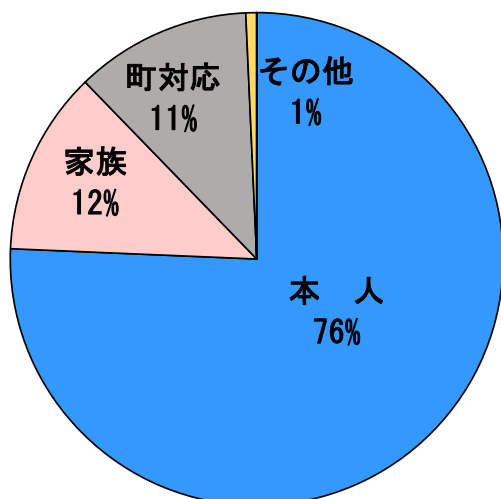
○調査結果を用いた分析例

【分析・表示について】

- 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%とならないこともあります。
- 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。
- 集計の都合上、無回答者を除いた集計となっている部分があるため、単純集計の結果と合致しない場合があります。
- 設問の項目名や選択肢においては、表記を省略している場合があるため、巻末の調査票をご参照ください。

【回答者の基本属性】

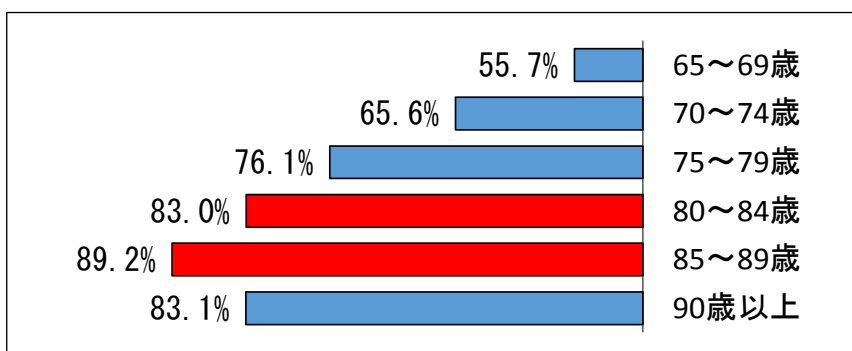
- **記入者** 回答者全体の7割以上が調査回答者本人の記載で、家族と町の対応がそれぞれ約1割となっています。



- **年齢** 85～90歳の方が約9割と回答率は最も多くなっています。65～69歳では55.7%と他の年齢層からみると回答率は最も少ない結果となっています。

男女計	65～69歳	244
	70～74歳	248
	75～79歳	235
	80～84歳	210
	85～89歳	140
	90歳以上	49
	計	1,126

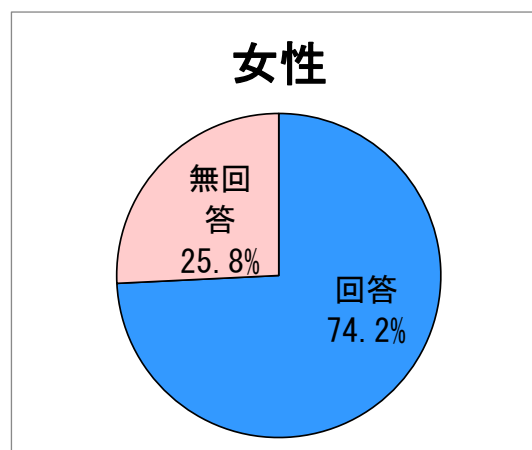
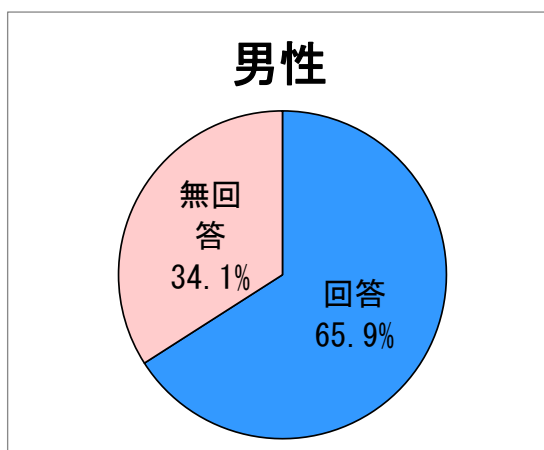
(単位：人)



- **性別** 女性は7割以上・男性は6割以上の方が回答しており、女性の方が多い結果となっています。

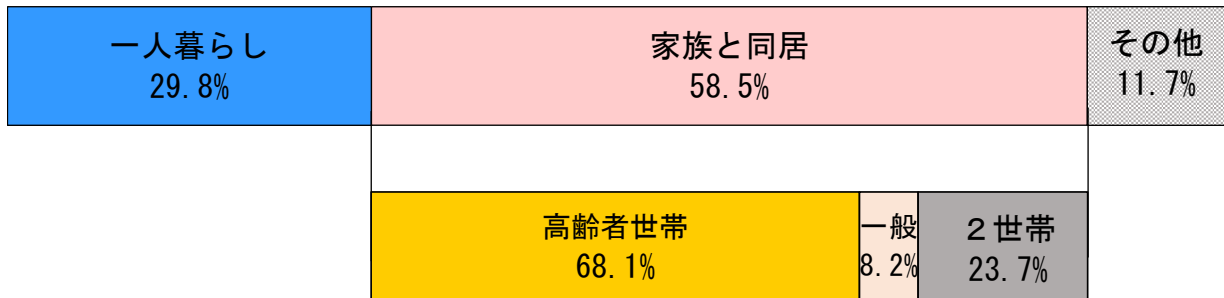
	回答者数	対象者
男性	455	690
女性	671	904
計	1,126	1,594

(単位：人)

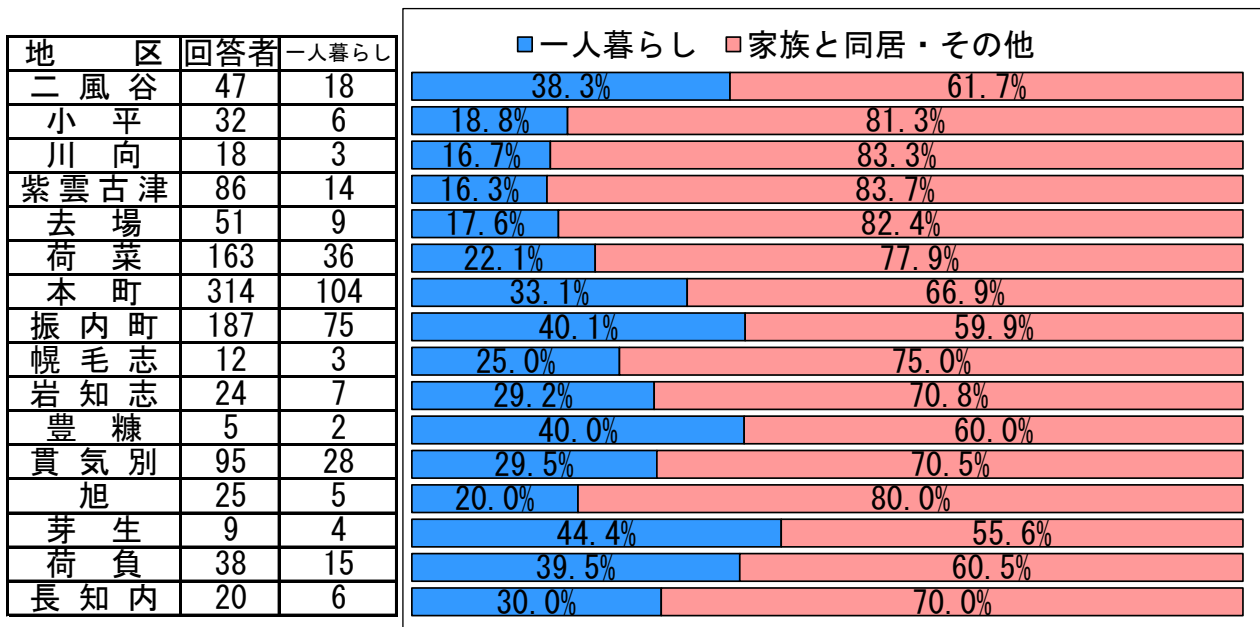


【家族や生活状況】

- 「家族構成をお教えてください」の設問に対して、回答者の約3割（335名）が「一人暮らし」で、約6割（659名）が家族と同居しています。家族と同居している方のうち、約7割（449名）が高齢者世帯となっています。



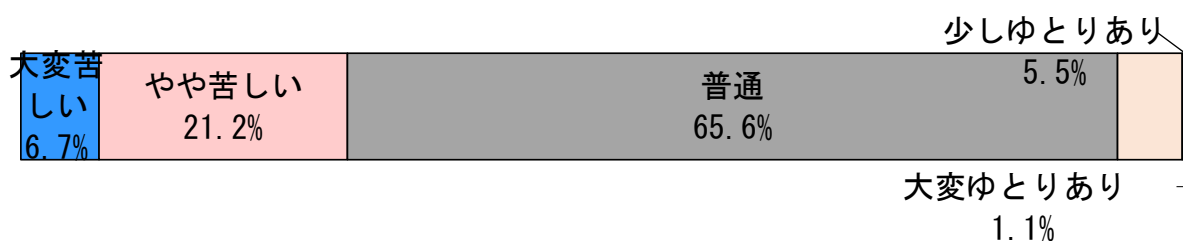
- **地区別** 地区別では一人暮らしの割合が、1割～4割と地区によって差がみられる結果となっています。



- 「あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」の設問に対して、約8割の方が、「介護・介助は必要ない」と回答していますが、「何らかの介護・介助は必要だが、今は受けていない」と回答している方（今後、介護を受ける可能性が高い状態の方）は、8.7%（98名）となっています。

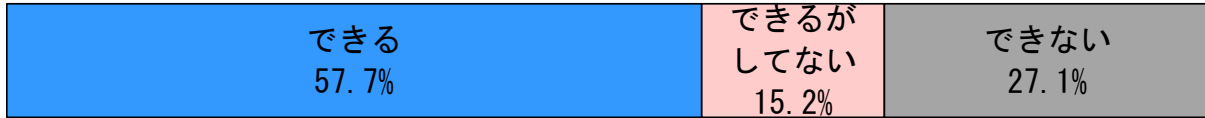


- 「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか」という設問に対して、苦しさを感じている方は約3割で、約7割の方は、普通もしくはゆとりがあると回答している結果となっています。

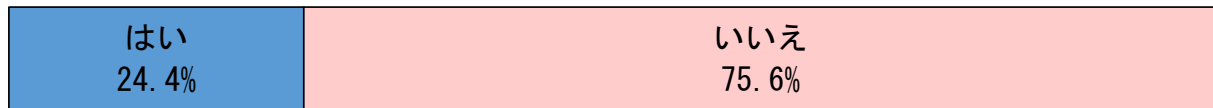


【運動・閉じこもり】

- 「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」という設問に対して、約3割（305名）の方が、手すりや壁につたわないと昇降できない結果となっています。



- 「外出を控えていますか」という設問に対して、控えている方は2割以上おり、その理由として「足腰などの痛み」が、最も多い結果となっています。次いで、「病気」、「トイレの心配」、「交通手段がない」となっています。



控えている理由

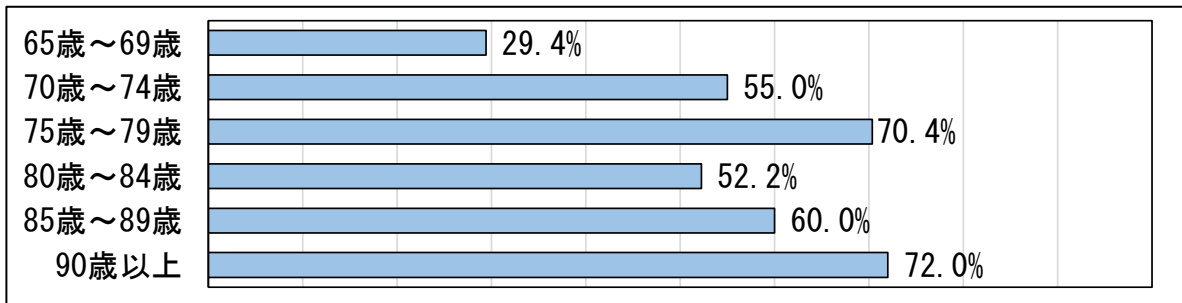


- 外出を控えている理由の年齢別

・足腰の痛み

足腰の痛みにより外出を控えているのは、70歳代から増え、2人に1人が足腰の痛みが原因で外出を控えていることが読み取れます。

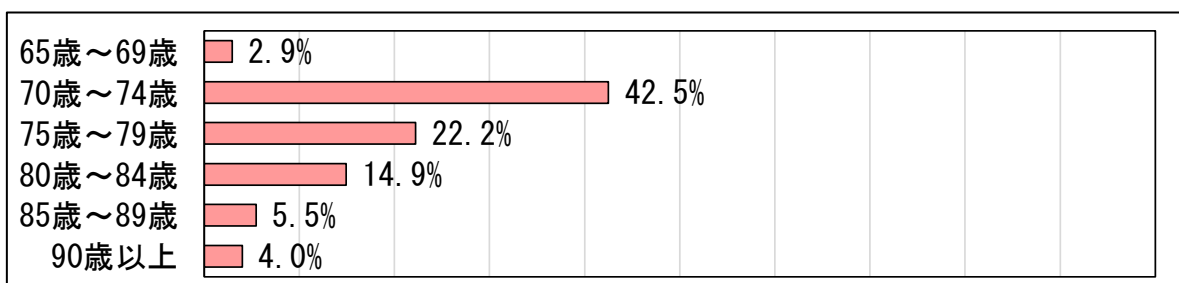
そのため、若いときから町が勧める「いきいき100歳体操」や通所リハビリテーション等に積極的に参加し、膝痛・腰痛予防を行うことで、外出を控える原因を防ぐことができると推測されます。



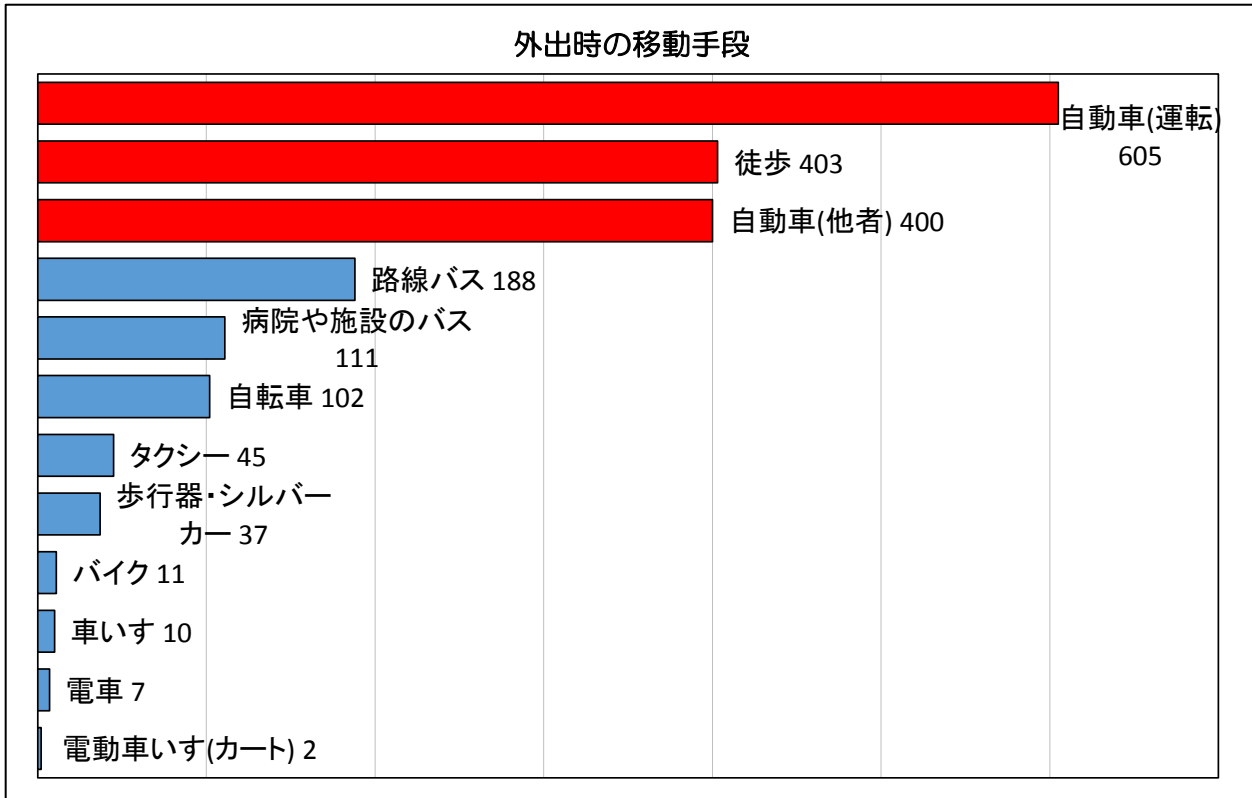
・交通手段がない

70歳前半では、「交通手段がない」と回答する方が、4割以上もおり、外出を控える原因の1つとなっています。

公共交通機関が少ない平取町では、交通手段だけではなく、外出しやすい環境（住まい）も含めて検討していく必要があると考えられます。



- 「外出する際の移動手段は何ですか」という設問に対して、「自動車(運転)」が最も多い結果となっています。次いで「徒歩」と「自動車(他者)」がほぼ同数で多い結果となっています。



外出には自動車の利用が最も多く、自動車を運転できる方が身近にいないと外出することが困難になることが読み取れます。



地区別でも自動車での移動が最も多い結果となっていますが、公共交通機関の利用のみをみると、多くの地区で「路線バス」の利用がありました。「病院や施設のバス」、「タクシー」の利用は地区によって差が多くみられています。

地区	回答数	路線バス	病院や施設のバス	タクシー
二風谷	47	50.0%	50.0%	
小平	32	44.4%	22.2%	33.3%
川向	18	100.0%		
紫雲古津	86	66.7%	33.3%	
去場	51	44.4%	55.6%	
荷菜	163	46%	37.8%	16.2%
本町	314	47.2%	27.0%	25.8%
振内町	187	66.3%	15.0%	18.8%
幌毛志	12	100%		
岩知志	24	90%	10%	
豊糠	5	100%		
貫気別	95	49%	49%	2.7%
旭	25	60%	30.0%	10.0%
芽生	9	100.0%		
荷負	38	52.4%	47.6%	
長知内	20	55.6%	44%	

・ 外出時の移動手段（年齢別男女比）

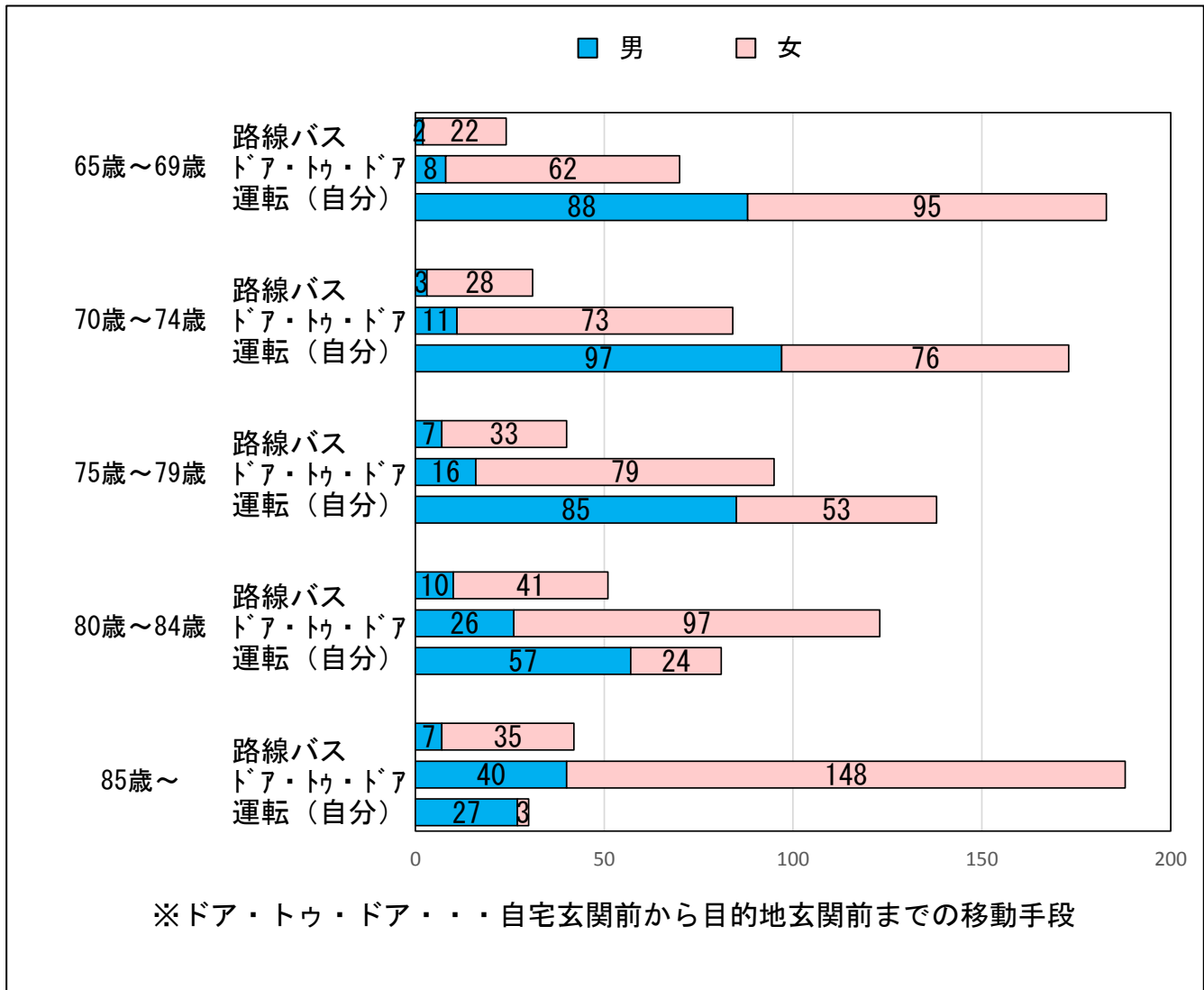
男性は自分で運転し、外出することは多いが、誰かに乗せてもらったり公共交通機関を利用し、外出することが少ないことが読み取れます。

そのため、「自分で運転ができなくなった」＝「閉じこもる」危険性があります。

女性は、自分で運転ができなくなると、誰かに乗せてもらうなどをして外出していることが読み取れます。

また、年齢別にみると、高齢になるにつれ、自分で運転ができなくなり、誰かに乗せてもらうことが増えていますが、路線バスはわずかに増える程度です。

このことより、住まいが現状のままであれば、平取町での移動支援は「ドア・トゥ・ドア」の移動手段が必要だと考えられます。



【転倒予防】

- この一年で転倒経験があるという方は、4割以上いる結果となっています。それに対し、転倒に対する不安があると回答した方は、5割以上おり、転倒経験がない方でも、転倒に対する不安があるということが読み取れます。

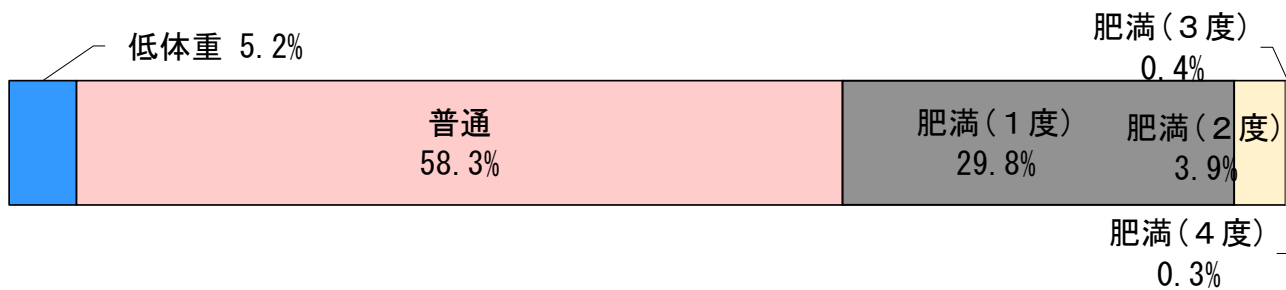
この一年で転んだ ことがありますか？	何度も 16.1%	一度 26.9%	ない 57.0%	
	不安大 20.1%	不安少 32.2%	余りない 28.5%	ない 19.2%

【口腔・栄養】

- 身長と体重から算出したBMIでは、半数以上の方は普通という結果となっています。しかし、低体重の方が約5%、高度肥満と言われる3度・4度の肥満は約1%おり、放っておくと、健康被害から要介護状態になってしまう危険性があります。若いときからの健康管理が必要ですが、現行の体制では対応できていないため、体制を整え、保健推進係と連携していく必要があると考えられます。

※BMI = 体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}

低体重	: 18.5未満	標準	: 18.5以上25.0未満
肥満(1度)	: 25.0以上30.0未満	肥満(2度)	: 30.0以上35.0未満
肥満(3度)	: 35.0以上40.0未満	肥満(4度)	: 40.0以上



- 口の渇きが気になる方は、約3割いる結果となっています。また、半年前に比べて、固いものが食べにくくなった方も3割を占めており、口腔機能の低下が懸念されます。

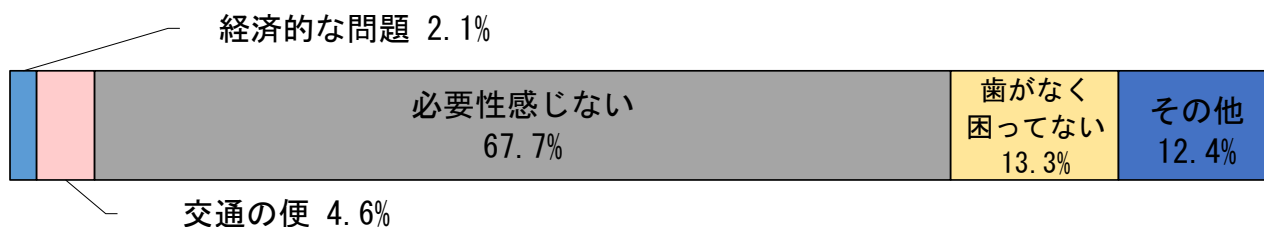
口の渇きが気になる	気になる 28.7%	気にならない 71.3%
固いものが食べにくい	食べにくい 30.6%	変わらない 69.4%

- 「定期的に歯医者に通っていますか」という設問に対して、7割以上の方が、定期的に歯医者には通っていないという結果になっています。



通っていない
場合の理由

- 通っていない理由として、「必要性を感じていない」や「歯がなく困っていない」という方が、8割を占めています。「経済的な問題」や「交通の便」が理由で通えない方が、約7%いる結果となっています。

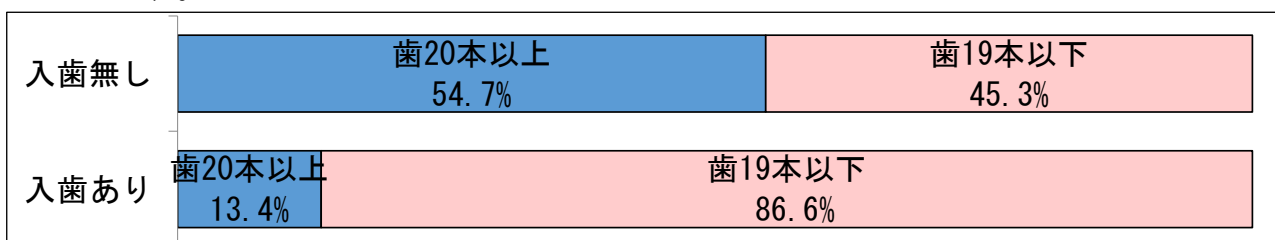


- 「歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください」という設問に対して、入歯を利用している割合は、約7割となっています。そのうち、自分の歯が19本以下の方がほとんどとなっています。

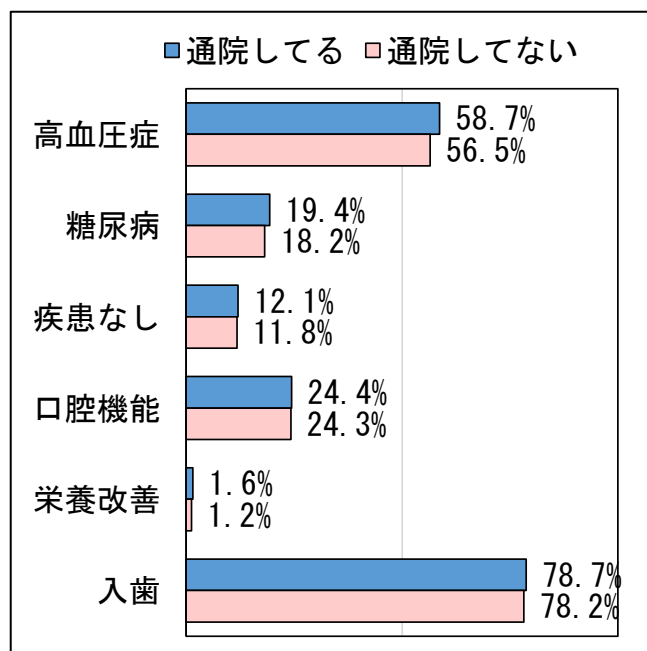
(成人の歯の本数は、親知らずを含めて32本)

歯の本数が少なく、かつ、入歯をしていない方が約45% (110名) もみられます。

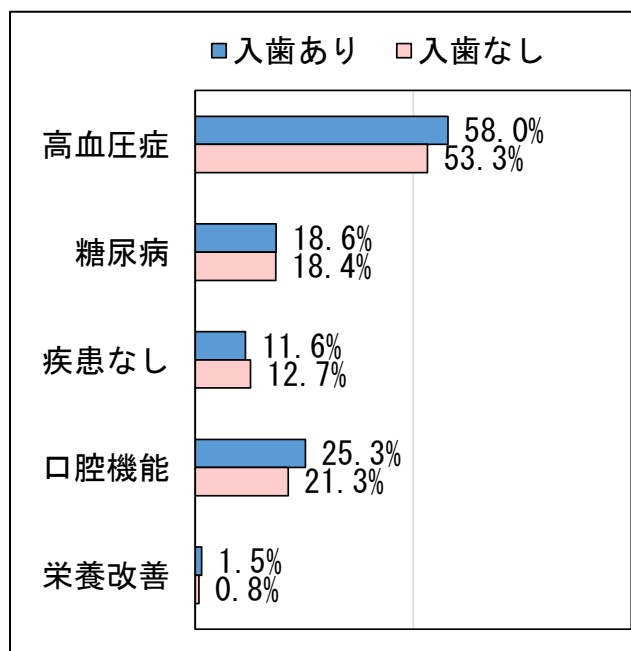
口腔機能の低下により、がんや誤嚥性肺炎、認知症等の疾患になる危険性が高くなってしまいうため、口腔ケアの普及啓発が必要と考えられ、保健推進係との連携が必要になると考えられます。



・ 歯医者に通院

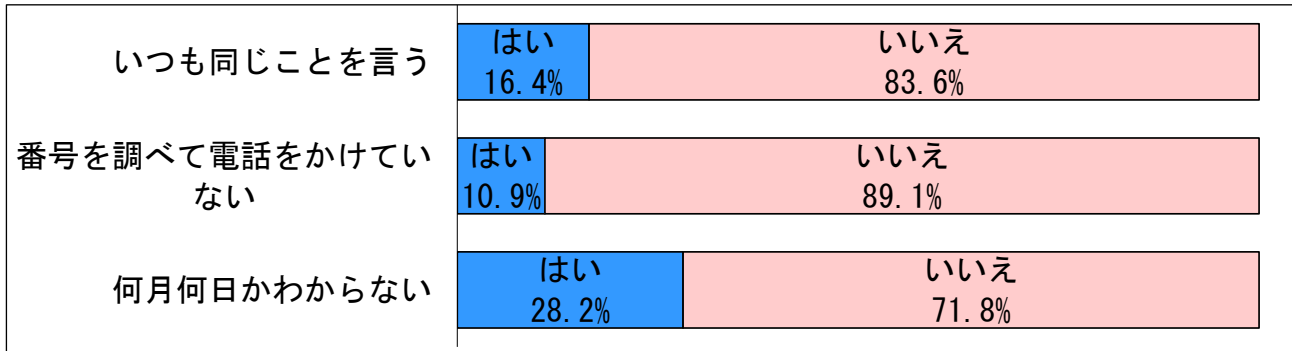


・ 入歯の使用



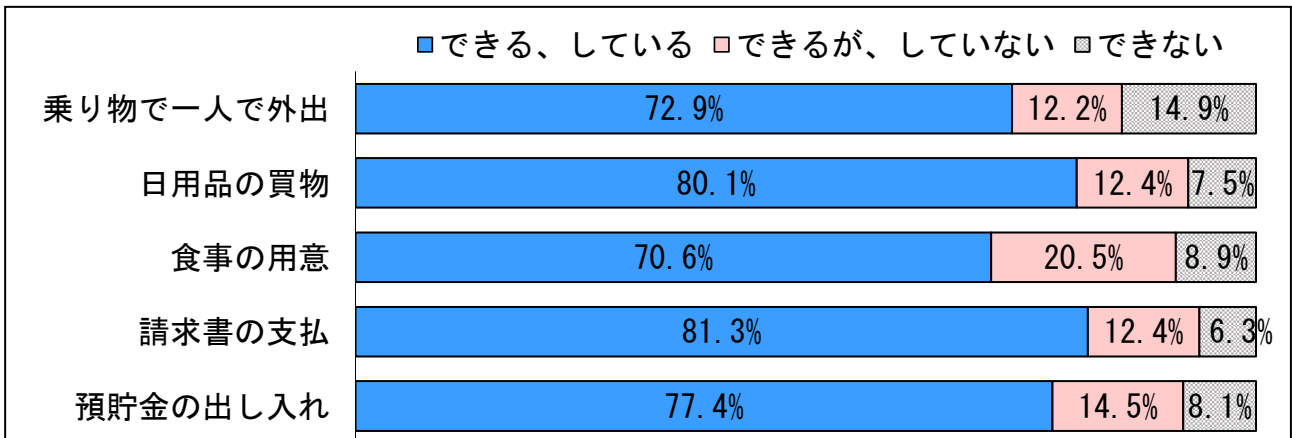
【もの忘れ】

- 各項目で、約1～3割の方が、もの忘れを感じていたり、自覚しているという結果となっています。

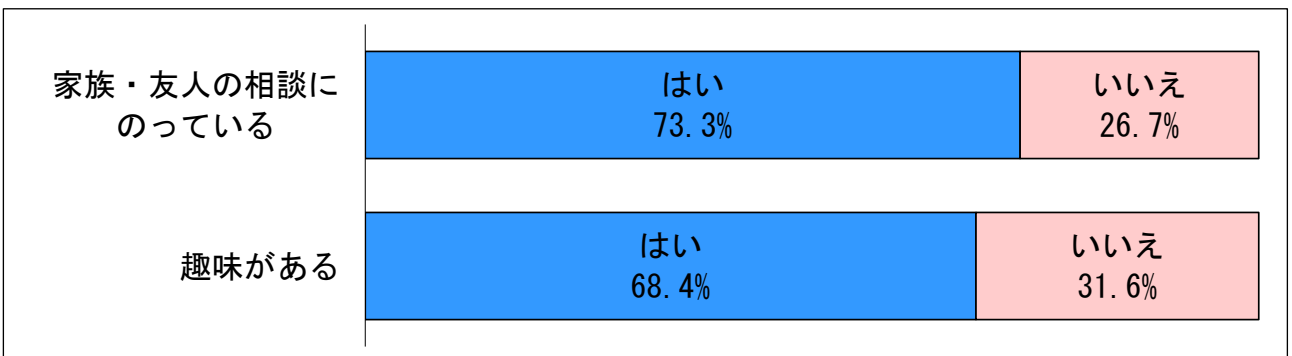


【日常生活】

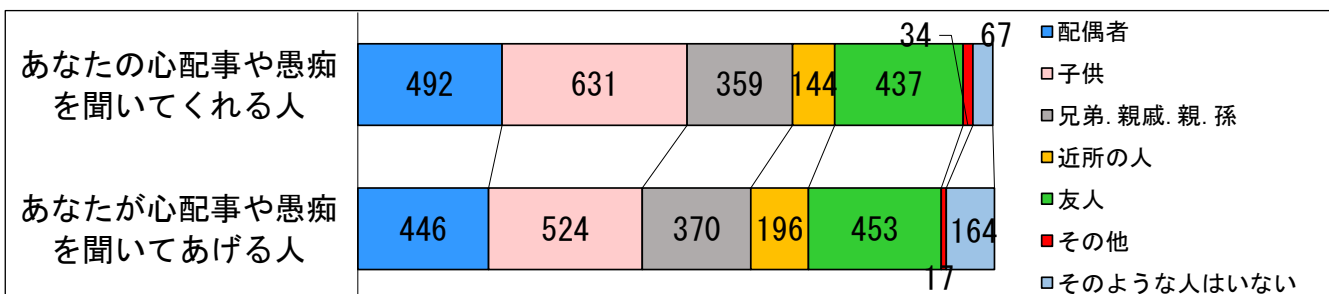
- 日常生活では、多くの項目で8割以上の方が自立していますが、「乗り物で一人で外出」については、「できない」と答えた方が、14.9%と多くみられています。



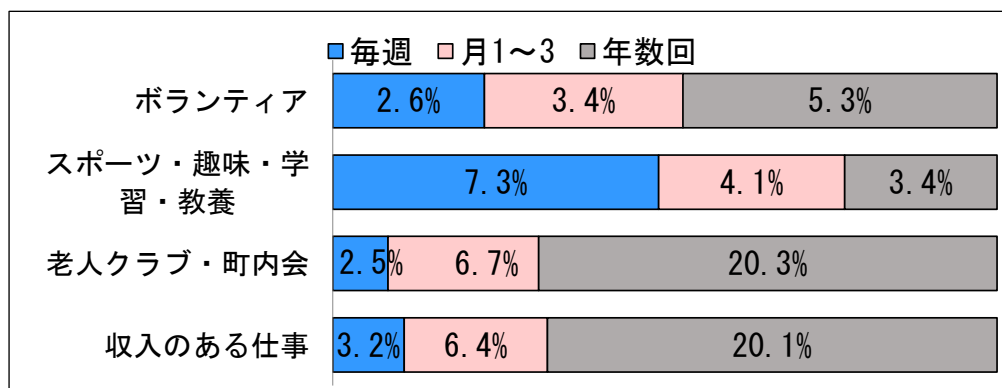
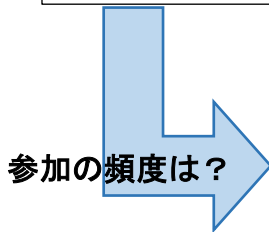
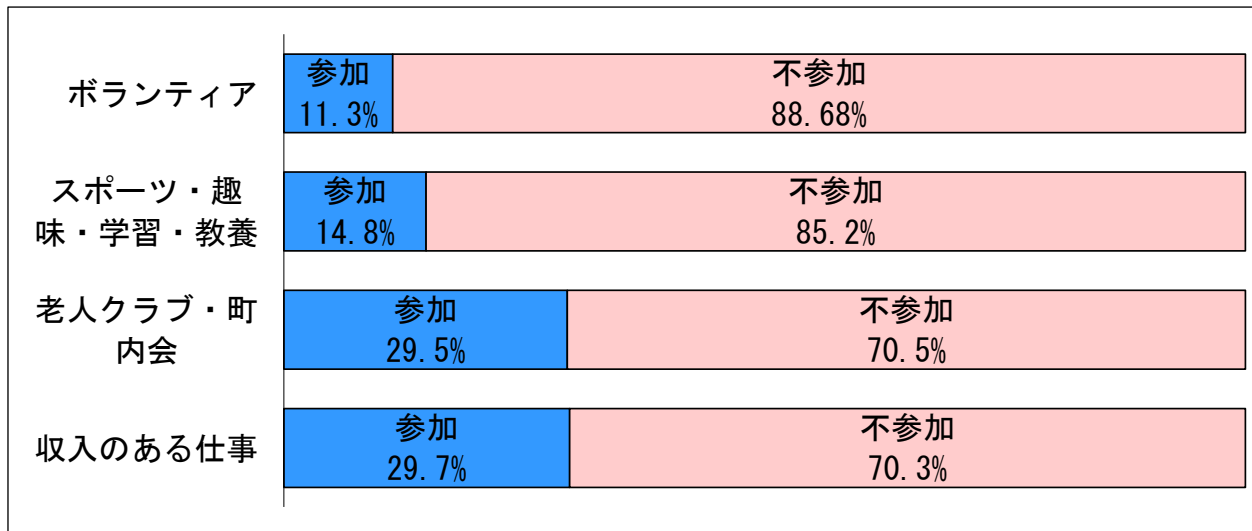
- 趣味は6割以上の方が「ある」という結果になっています。



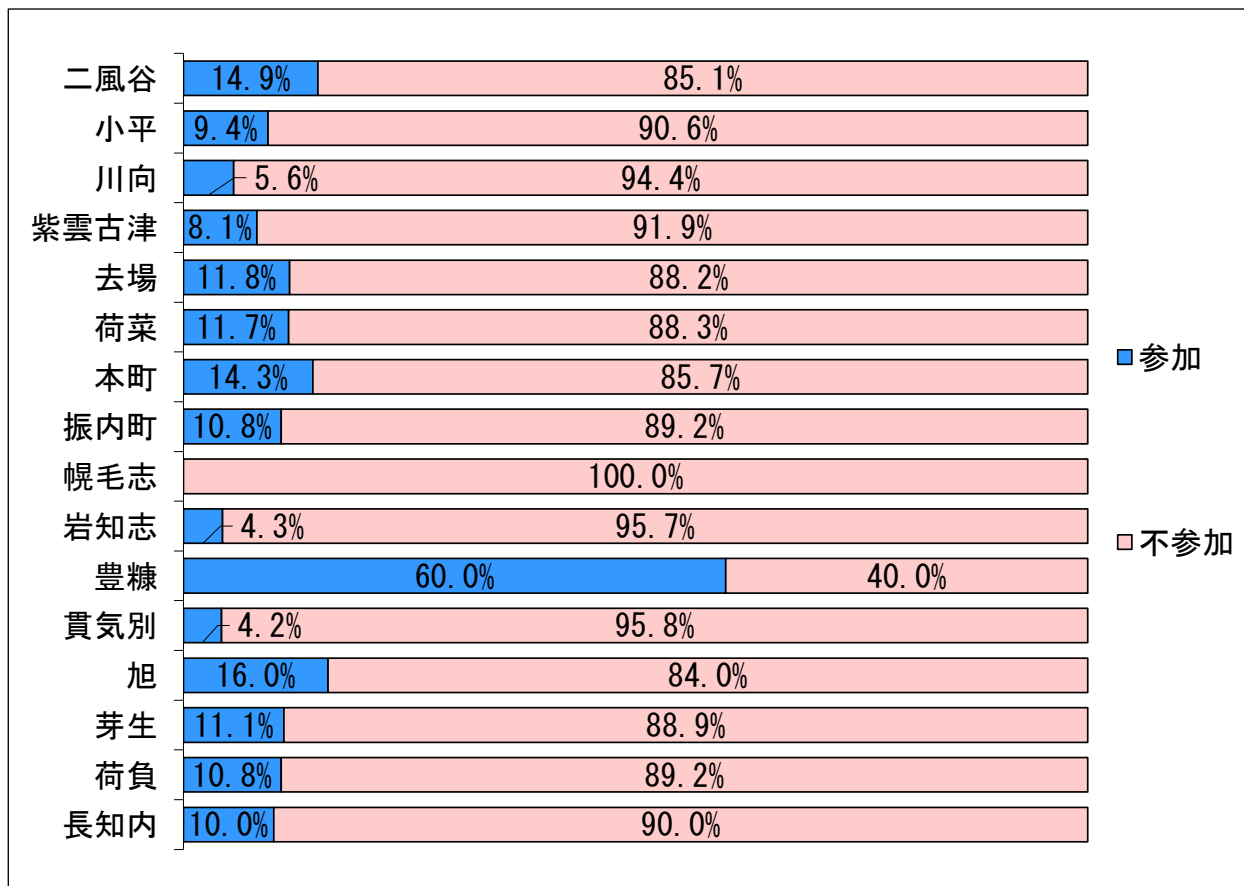
- 困った事柄などを聞いてもらう・聞く相手としては、「配偶者」や「子供」、「兄弟・姉妹・親戚・親・孫」、「友人」など身近な家族や友人が上位を占めています。しかし、心配事を聞いてあげる人は、友人・近所の人ほとんど変わりませんが、子供からの心配事などの相談は少ないという結果となっています。



- 「地域活動に参加していますか」という設問では、不参加という回答が多くなっています。特に、ボランティアやスポーツ・趣味・学習・教養の項目での不参加が目立っています。

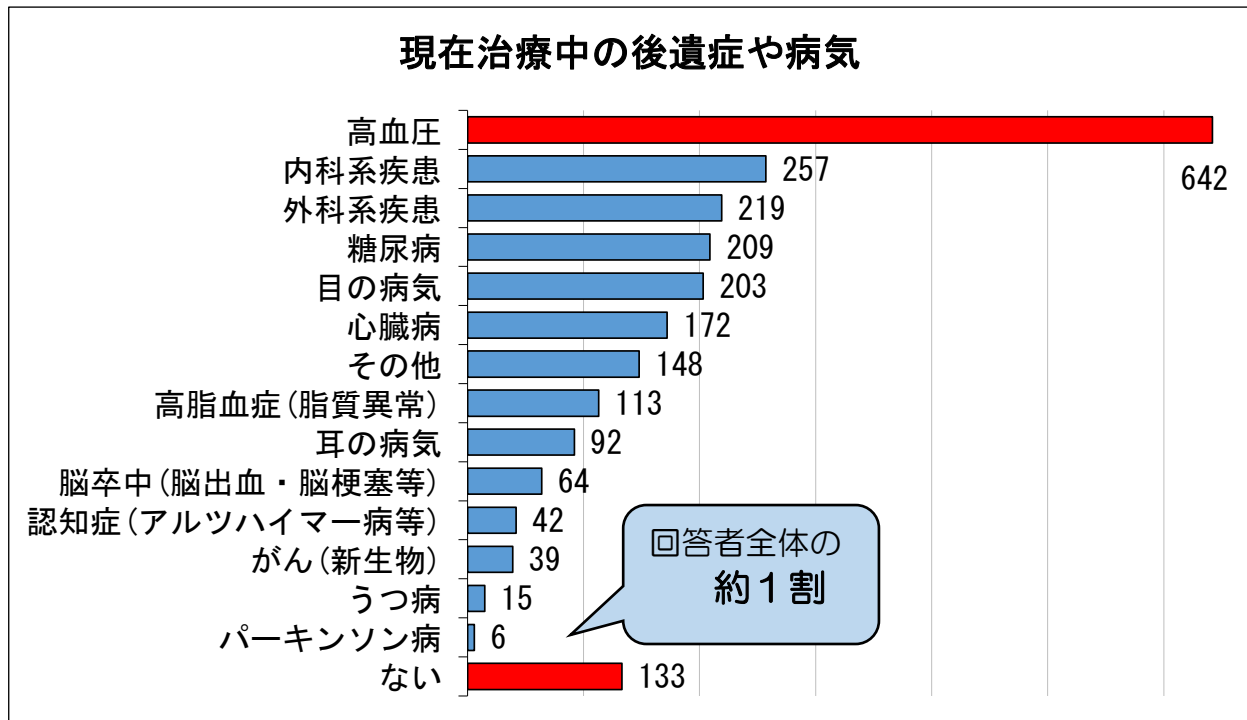
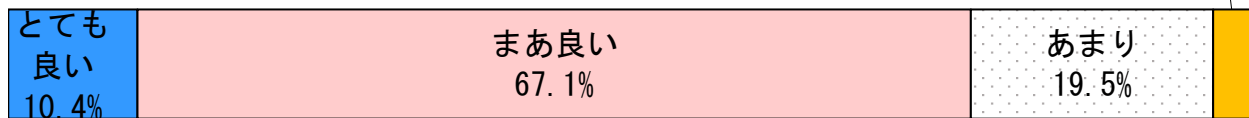


- 地区別でのボランティアの参加
地区別でみると、回答者数の差によって、大きく数値は変動してしまいましたが、約1割の方が、ボランティアに参加している結果となっています。

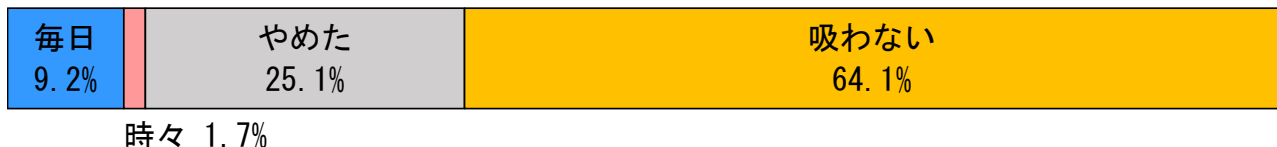


【健康】

- 「現在のあなたの健康状態はいかがですか」の設問に対して、「良い」と感じている方は7割以上を占めるものの、「現在治療中の後遺症や病気がない」と回答された方は全体の約1割しかいません。多くの方が何らかの治療を受けていることが読み取れます。治療中の病気としては、高血圧が圧倒的に多く、次いで、内科系（肝臓・腎臓など）、外科系（骨折など）、糖尿病が多くなっています。

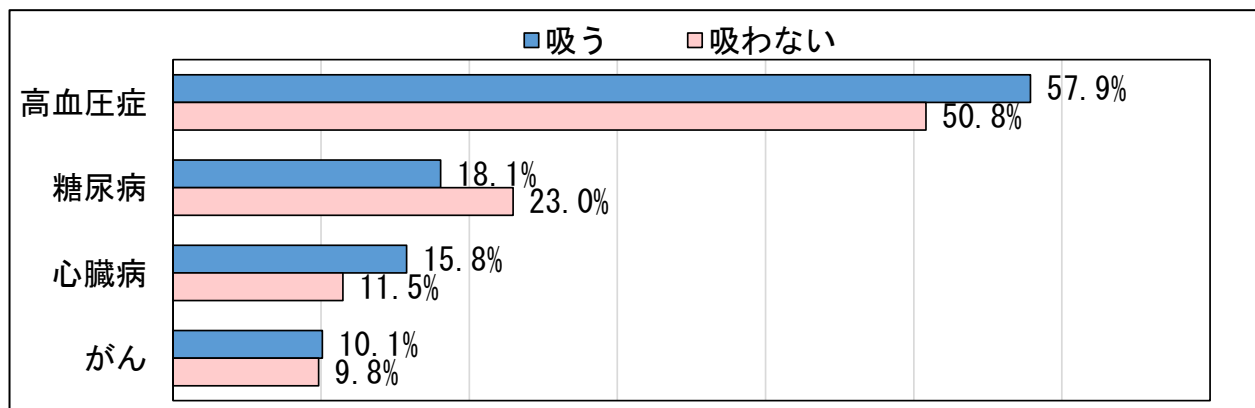


- 「タバコは吸っていますか」という設問に対して、喫煙習慣がある方は約1割となっており、約9割が喫煙の習慣はないという結果となっています。



・疾患別

喫煙者と非喫煙者の疾患別を比べると、循環器疾患（高血圧・心臓病）は喫煙者が高く、内分泌疾患（糖尿病）は非喫煙者が高い結果となっています。このことより、タバコによる疾患のリスクだけではなく、生活習慣の改善を含めた保健推進係による保健指導が必要であると考えられます。



【総合事業対象者】

- 総合事業対象者とは、基本チェックリスト(日常生活動作や健康状態、認知機能などのチェック項目)を用いて、要支援・要介護になるおそれがあると判断された方をいいます。

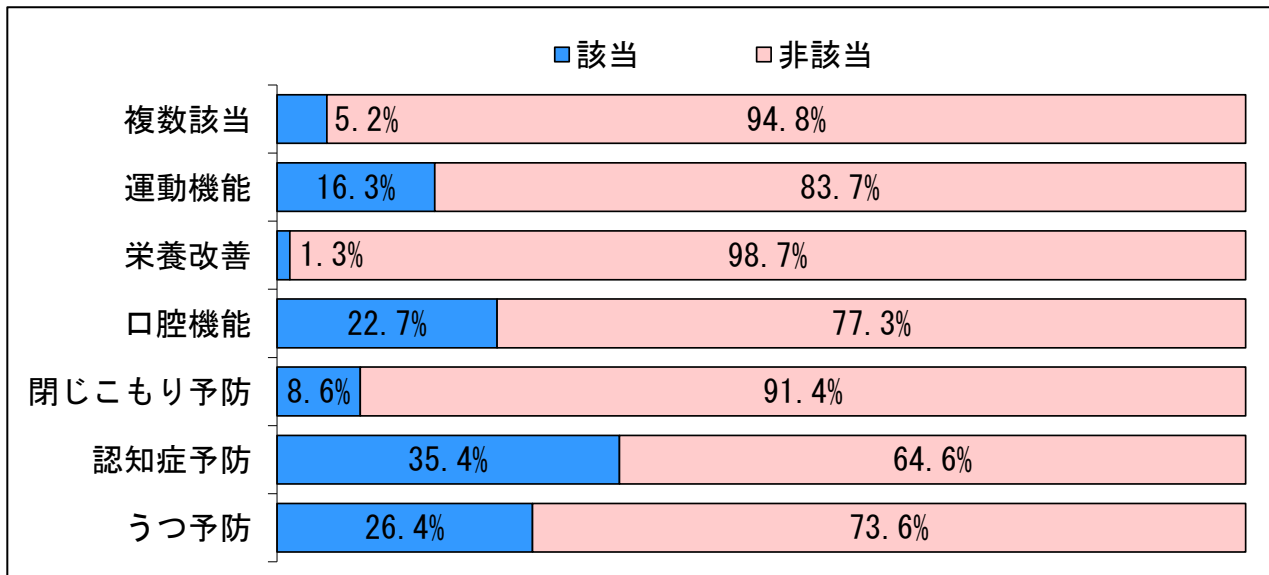
今回の調査結果では、591名が総合事業対象者に該当となり、該当の方は、早期に介護予防が必要となります。

※一般高齢者：994名（該当：591名 非該当：403名）

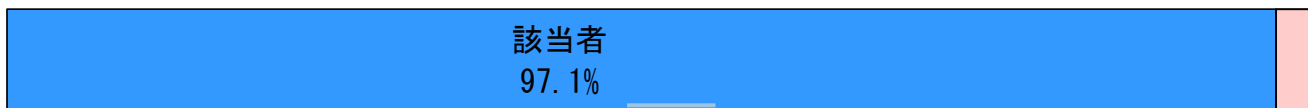


判定の内訳

- 総合事業対象者に該当となる最も多い理由は、認知症の項目であり、次いで、うつ項目となっています。平取町では、足腰が弱り、要介護状態になる危険性よりも、認知症状の低下による要介護状態になる危険性の方が高いことが読み取れます。

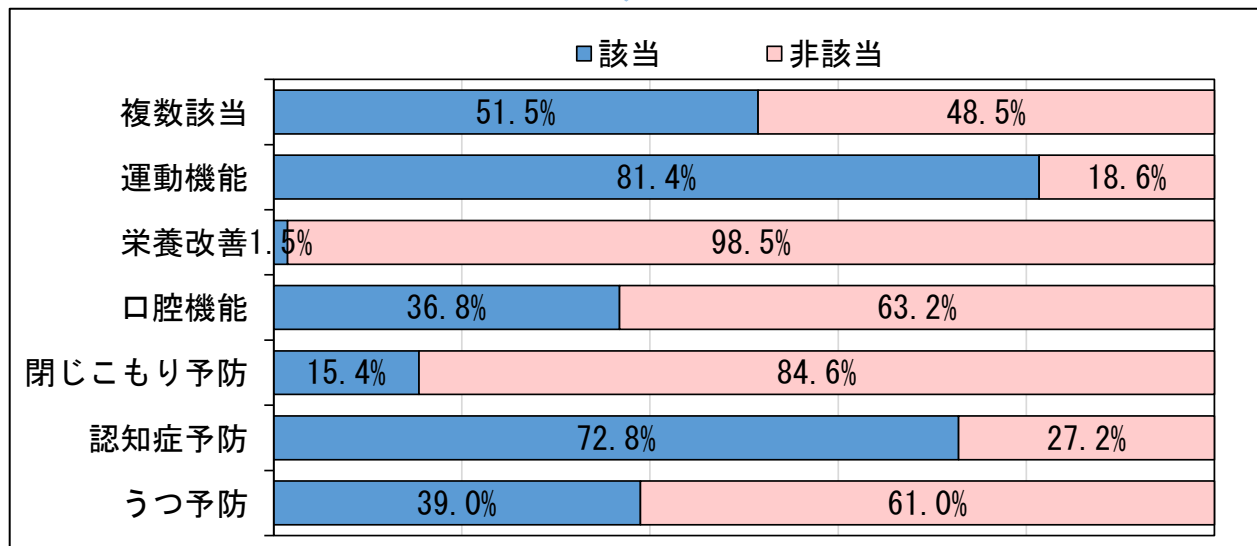


※ 介護認定者：136名（該当者：132名 非該当者：4名）



判定の内訳

非該当者
2.9%



【町独自の質問項目】

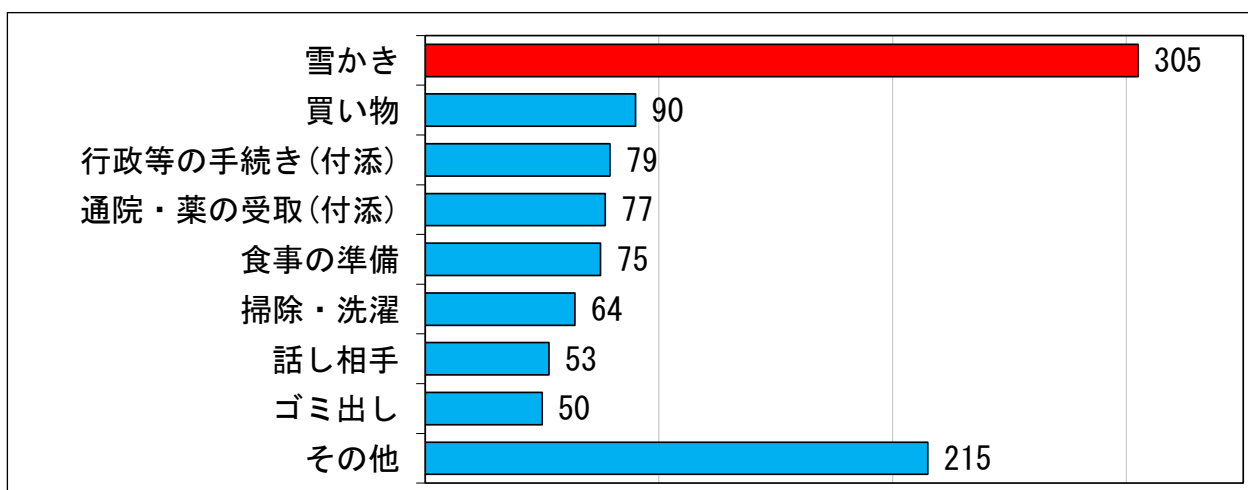
- 「家事などの手助けが必要になった場合、どこで生活を送りたいですか」という設問に対して、自宅を希望される方が最も多くみられましたが、約3割にあたる304名の方が見守りのある高齢者住宅で生活を送りたいという結果となっています。
しかし、平取町の現状では、その人たちを補えるだけの住環境は整ってはおらず、今後の検討が必要と考えられます。

自宅 54.1%	家族のところ 11.1%	高齢者住宅 27.1%	その他 7.8%
-------------	-----------------	----------------	-------------

- 「一人暮らし」と「高齢者世帯」の784名の内訳をみると、高齢者住宅を選択した方は、30.5%（239名）となっています。

自宅 51.5%	家族のところ 9.8%	高齢者住宅 30.5%
-------------	----------------	----------------

- 「日常生活でどのようなことに困っていますか(いくつでも)」の設問に対して、最も困っていることは、「雪かき」となっています。
「雪かき」は介護サービスでは補えないため、地域の協力が必要不可欠といえます。



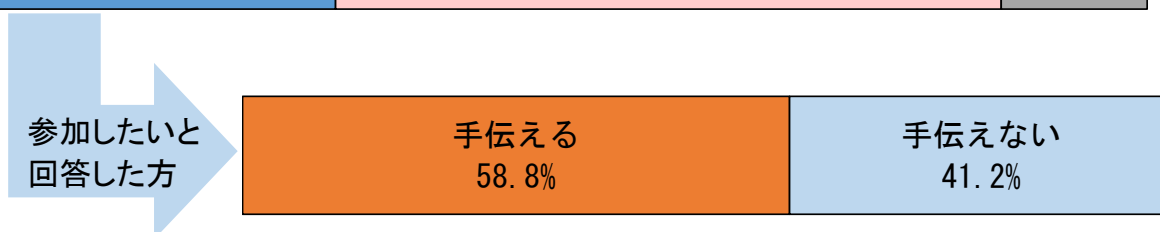
- 「平取町における高齢者支援に、最も必要な新たな支援は何ですか」という設問に対して、最も望まれていた支援は、「リハビリテーション」となっています。リハビリテーションを望む理由として、「足腰の痛み」が外出を控える原因となっていることから、リハビリによるケアや筋力向上を望んでいることが推測されます。

■交流サロン □通いの場への移動支援 □リハビリテーション ■その他 □特になし

サロン 8.7%	移動支援 10.7%	リハビリ 17.9%	他 7.8%	特になし 54.5%
-------------	---------------	---------------	-----------	---------------

- 「住民主体の介護予防教室や交流サロン(通いの場)に参加したいですか」という設問に対して、3人に1人が「参加したい」という回答となっています。そのうち、半数以上は、「手伝うことができる」と回答しています。このことより、住民主体のサロンの実施方法として、支援する方と支援される方を分けて実施するのではなく、参加する方で会場の準備等を実施する方法をとることができると考えられます。地域住民の協力で、各地域でのサロン活動が展開できると考えられます。

参加したい 34.7%	参加したくない 53.6%	その他 11.8%
----------------	------------------	--------------



- 「住民主体の介護予防教室や交流サロン(通いの場)に参加する場合、移動の支援は必要ですか」という設問に対して、約4割の方が必要という結果となっています。移動支援がなくても参加できる方が約6割もいることから、各地区での交流サロンの立上げは、急務と考えられます。しかし、約4割の方が交流サロンに参加するためには移動支援が必要との結果より、介護予防を進める上で「移動支援」を整える必要があると考えられます。

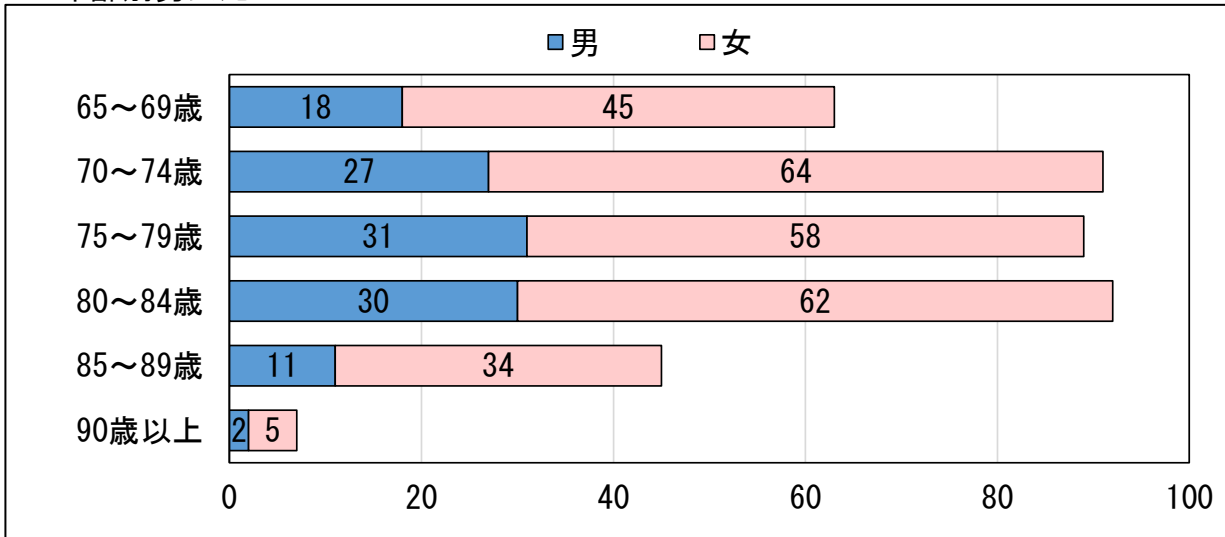
必要 38.9%	不要 61.1%
-------------	-------------

● 交流サロンに参加したい

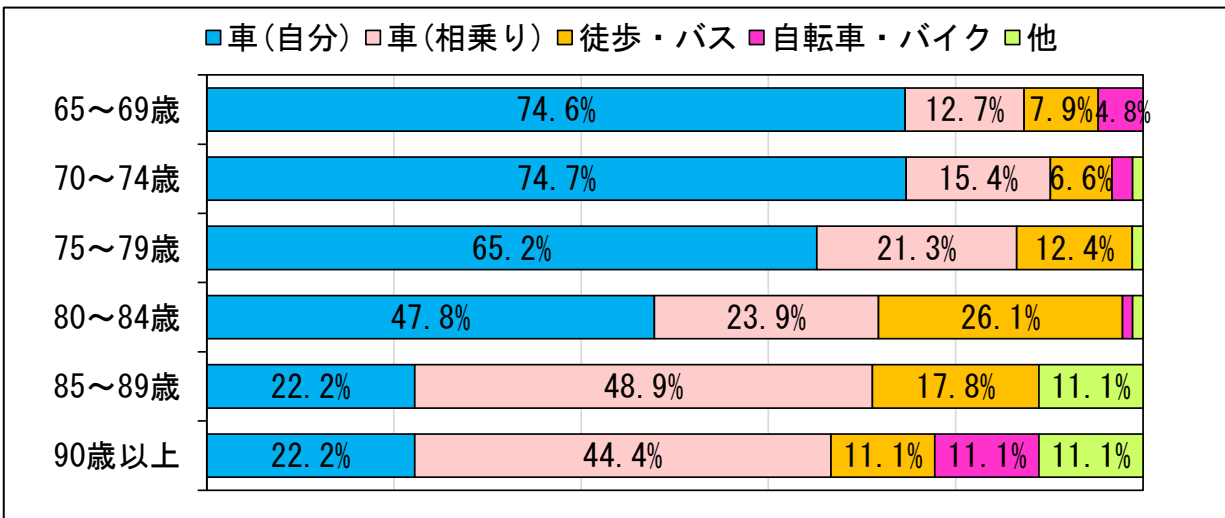
「交流サロンに参加したい」という項目で男女比をみると、女性の方が男性より2倍以上多い結果となっています。全国的にみても、男性の閉じこもりは課題となっており、平取町も男性の閉じこもり予防を検討していかなければならないと思われます。

また、年齢別でみると、85歳以上では、交流サロンへの参加希望は減少しています。これは移動手段の項目をみると、85歳以上では、自分で運転する方が、急激に減っていることから、自分で交流サロンへ行くことが大変になるため、少なくなっていると推測されます。

・ 年齢別男女比



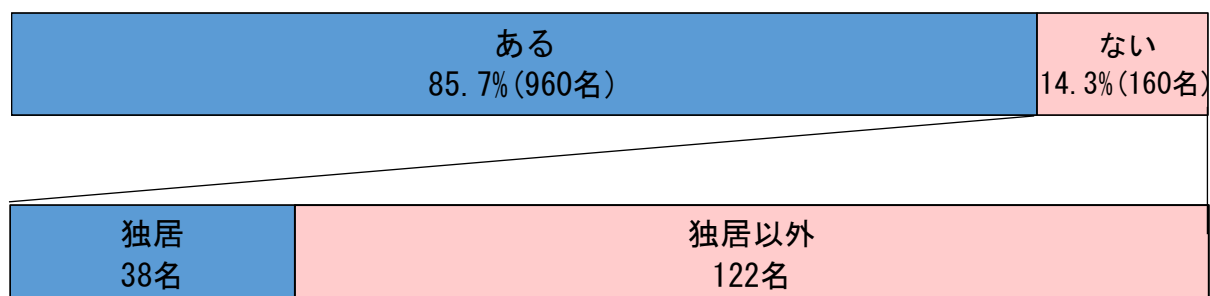
・ 移動手段(年齢別)



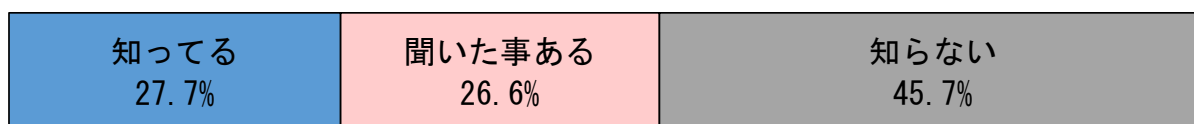
- 「平取町に専門職によるリハビリテーションがあれば利用しますか」という設問に対して、リハビリテーションを「利用する」とう方は、約6割（656名）もいます。
リハビリテーションは、医療における訪問・通所リハビリテーションと、介護における訪問・通所リハビリテーション、介護予防・生活支援サービス事業や一般介護予防事業の中にも、リハビリテーションがあります。しかし、平取町で実施しているのは、一般介護予防事業のみであり、656名もの要望に対応できていない状況となっています。
そのため、平取町の介護予防を進めていく上では、専門職によるリハビリテーションが必要と考えられます。



- 「緊急時に連絡するところがありますか」という設問に対して、14%（160名）の方が、「ない」と回答され、そのうち、独居の方は38名となっています。
そのため、緊急連絡先の把握や整備等のシステムづくりが必要と考えられますが、行政だけで行えるものではないため、民生委員や自治会等の地域の協力が必須となります。
また、14%の方が、成年後見制度の利用につながる可能性があるため、早急に、平取町の成年後見制度を関係機関と調整し進めていく必要があると考えられます。



- 「成年後見制度を知っていますか」という設問に対して、約半数の方が成年後見制度を「知らない」という結果となっています。
そのため、まずは、普及啓発を進めていく必要があると考えられます。





お問い合わせ先

平取町保健福祉課

〒055-0195

北海道沙流郡平取町本町 35 番地 1
ふれあいセンターびらとり

TEL : 01457-4-6114

FAX : 01457-4-6870